



日本維新の会

衆議院議員

田沼たかし

千葉1区

中央区・稲毛区・美浜区



発行日：平成二十五年九月十日

田沼新聞 49号

【事務連絡】

初国会閉会！6回の委員会質問！

初の通常国会では、ライフワークの教育改革を中心に、6回の委員会質問を行いました。年4回しか質問できない市議会と比べれば、1年分以上の仕事をしたこととなります。また拉致問題の特別委員会では理事(党を代表する役員のようなもの)も拝命しています。1年生議員でこれだけの仕事を任されるのは、維新の会ならではの、大変ですが、鍛えられ、感謝です。

国会は各部門トップの大臣も政治家のため、比較的議論はかみ合うのですが、やはり政府・与党案は踏み込み不足。たとえば下記の、教育委員会改革でも、教育長を責任者にするだけで、現状の微修正にとどまります。やはり前例踏襲を望む、官僚への依存があると感じ、残念です。

維新の会は「グレートリセット」、すなわち官僚依存は止め、時代遅れの制度や仕組みを抜本改革するための党です。「なんでも反対」の野党ではありませんが、踏み込み不足は徹底追及する。すべては党のためでなく日本のため。今後もこの姿勢を貫きます。



6月3日の決算行政監視委員会にて

教育委員会廃止法案、提出！教育を取り戻す！



6月5日、中田宏・前横浜市長と共に提出

私の今国会活動の集大成であり、また衆院選に挑戦を決断した最大のテーマである、「教育委員会廃止法案」を、6月5日、日本維新の会単独で、提出しました。

現行の教育委員会制度は、機能していません。その最大の原因は、責任が曖昧なことです。だからいじめ対策でも、正しい教科書選びでも、事なかれ主義の対策に終始する。私はこの問題を、千葉市議会議員の頃からずっと訴えてきました。

この構造を抜本的に改革する「教育委員会廃止法案」を、中田宏・前横浜市長をリーダーに、私も中心メンバーとして作成し、提出しました。

いまの教委制度の問題点

教育行政の責任者が不明確。首長(知事・市長)なのか、教育委員長なのか、教育長なのか分からない。権限も分散。そのため問題が起きて、責任を認めない傾向に。隠ぺい体質や、前例踏襲的対策となりがち。

首長に教育政策を実行する権限がない。選挙でも訴えられない。ゆえに教育政策に民意が反映されない。

教育行政の責任者は、制度上は5名前後の教育委員。しかし教員出身ではなく、常勤でもない。上司もおらず評価もない名誉職。ゆえに事務局案を追認するだけが多い。実質的には、役人主導で、教育行政が決定されている。

校長先生は、各学校の運営に責任を負っているが、人事権も予算権もない。一方、教育委員会事務局からの指導の実権は大きい。そのため、権限はない一方で責任は取られる、理不尽な仕組みになっている。

廃止法案(新制度案)でこうなります！

首長に、教育政策の権限を集中させ、責任も明確に負う。その結果、選挙でも教育政策を訴えられるようになり、民意が反映できるようになる。逆に問題への対応が不十分なときは落選させられる。

また議会への報告義務を強化し、隠ぺいや未達成がないか、より深いチェックが可能に。

教育委員会は廃止。首長直属の教育部局と、局長を新設。役人主導ではなく、民意に支えられた首長の意向や教育目標を、ダイレクトに反映できるようになる。

各校長に権限を委譲し、しっかりと学校をマネジメントさせる。事務局の指導は廃止。

教育改革は、教育委員会改革から。これが私のこれまでの政治経験の中で到達した結論です。責任の所在を明確にし、権限と一致させる。そして教育行政に民意を反映させる。一言でいえば「教育を役人の手から国民に取り戻す」のが、この法案です。

教育委員会制度は、GHQが日本弱体化を目的として導入しました。これを戦後初めて根本的に改める、まさに「グレートリセット」を掲げる維新ならではの提案が、この法案なのです。

こちらの武器はそろえました。今後は臨時国会、通常国会で、他党との交渉・説得に入ります。頑張ります！

第2回 国政報告会 とき：平成25年9月28日(土) 13:00~14:30 場所：千葉市生涯学習センター 3階大研修室

市議時代から続けている報告会です。初めての方でも全く心配ご無用です。予約不要。途中入退室可。参加費無料。是非お越しください！

祝！東京オリンピック、決定！日本復活へ！



2020年オリンピック・パラリンピックの、東京開催が決定！飛び上がって喜びました。前回の東京五輪は戦後復興の象徴でした。今回の五輪は、**震災からの復興の象徴にしたい**。日本の閉塞感を打破し、世界に日本の復活を力強くアピールする機会です。国民一丸となって、成功させましょう！

五輪開催に向けて、我々がやるべきこともたくさんあります。福島第一原発の**汚染水問題収束**は第一。聖火リレーは東北の被災地も走るの、**町並み復旧**も必須です。更に私の専門たる**教育改革**を進め、皆が日本人としての誇りと美德を胸に**世界をおもてなし**したいですね。

また今後は、文科省下に「**スポーツ庁**」を創設し、各省庁の関連部署を統合。五輪実施と国民スポーツ全体の司令塔となるそうです。私も文部科学委員会所属ですので、立法府側から、この動きをチェック・後押ししたいと思います。

そして何より私がこの機に実現したいのが、**幕張新都心へのIR（統合リゾート）の導入**。カジノを含む様々なリゾート施設を整備し、世界中の富を日本に呼び込む。シンガポールをはじめ世界中がいま取り組み、成長につなげているのが、IRなのです。今こそ取り組むべきと、改めて訴えたく思います。

我々にできることはたくさんあります。夢と希望をもって、取り組みましょう。震災で犠牲になられた方々のためにも、**この五輪を「日本復活」の起爆剤にし、世界に新生日本をアピールしましょう！**やるぞ！

政界再編について～今こそ保守・小さな政府軸！

野党で、政界再編機運が高まっています。我が党の橋下代表は「維新の会という党の存続にはこだわっていない」と明言。皆水面下で積極的に動いています。対照的なのはみんなの党で、純化路線と再編路線で分裂しているようです。民主党は依然として自由主義者から社会主義者までいて、てんでばらばら。

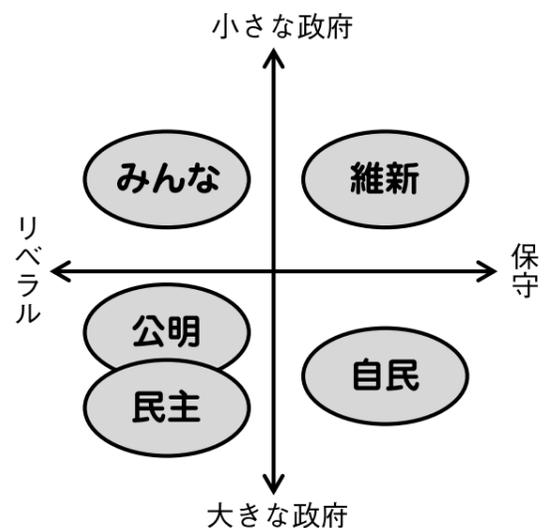
与党自民党も、安倍総理が総裁となってから、印象を替えることには成功しました。しかし、その中身はまだまだ変わっていません。**自民党は、既得権益保護者の集合体**。地元利益、業界利益のため、政権に居続けなければならない。しばしば政権を獲ることが自己目的化する。ゆえに総理の支持率が下がれば、必ずや改革派と利権擁護派の争いが始まると思います。

いまこそしっかりした野党が必要です。そしてそれは政策軸で結集するべきです。とにかく強調したいのは「**民主党の二の舞にならないこと**」すなわち、政策軸抜きで、非自民党なら何でもよし、の結集です。それで結集しても、政策がまとまらないので、政権を獲っても何も仕事ができない。そんなムダを繰り返す時間はもう日本には残っていません。たとえ大きな野党を作りたくても、民主党と同じ道、つまり政策抜きの結集は、絶対にダメ！我慢すべき！と、身を以って訴えます。

私はやはり、**維新の掲げた「グレートリセット」こそ、結集の軸だと確信**しています。肥大化・硬直化した官僚機構を改革し、政府の介入領域は縮小、既得権益と断固戦う。民間の自由な活動を守り、規制を緩和し、国民の自立を支援する。この小さな政府路線は、常に正しくはありませんが、**今は明らかに大きな政府となっています**。どんな政党でもこの改革には取り組まねばならない、この軸に他党からも結集してもらいたい、と思っています。

と同時に、私は保守政党であるべきと考えています。日本の歴史、伝統、文化、皇室を敬い、日本人としての愛国心・愛郷心を確かにしていくことは、中国等の脅威と対峙していくためにも、必要不可欠です。**きちんとした国家観・歴史観・愛国心は、政治家の最低条件**。ゆえに組合依存の強いリベラル議員とは、私はどうしても組めません。

今後、再編がどうなるかわかりませんが、この時代に衆議院議員となった運命と使命を胸に、上記理念にブレずに、挑んでいく決意です。



田沼たかしのプロフィール

- 1975(昭和50)年12月26日生まれ 37歳 千葉生まれ千葉育ち 一児の父
- 園生幼稚園、小中台南小、小中台中、千葉東高校、東京大学経済学部卒
- 外資系経営コンサルティング会社・アクセンチュアにて大企業や官公庁の改革プロジェクトを手掛ける。
- 30歳のときに政治を志し、街頭活動を開始。アクセンチュアを退社。

きっかけは、**鹿児島県の知覧にある特攻隊記念館を訪れたこと**。特攻隊の実物の遺書に魂を打ち抜かれ、多くの先人の犠牲の上に成り立つこの国を先人に恥ずかしくない、**誇り高き日本**にすることを決意。全くのゼロから政治の世界に飛び込む。

- 2007年、志だけで、千葉県議選に出馬。無所属の新人として善戦するも、惜敗。
- 落選中は、日本教育再生機構理事長室室長として、教育再生に従事。
- 2009年(補選)、2011年、千葉市議(稲毛区選出)2期連続トップ当選。
- 政治活動を始めて6年、**一貫して保守系無所属から、維新に参加**。維新政治塾1期生。
- 2012年、**衆議院議員選挙にて初当選**。
- 趣味は合唱。現在、「合唱団からたち」団長。

連絡先

千葉事務所 稲毛区小仲台4-14-8
TEL 043-253-9610
FAX 043-253-7255
国会事務所 衆議院第2議員会館416号室

Mail office@tanuma.info
HP http://tanuma.info
Blog http://ameblo.jp/tanuma
Twitter @tanumatakashi